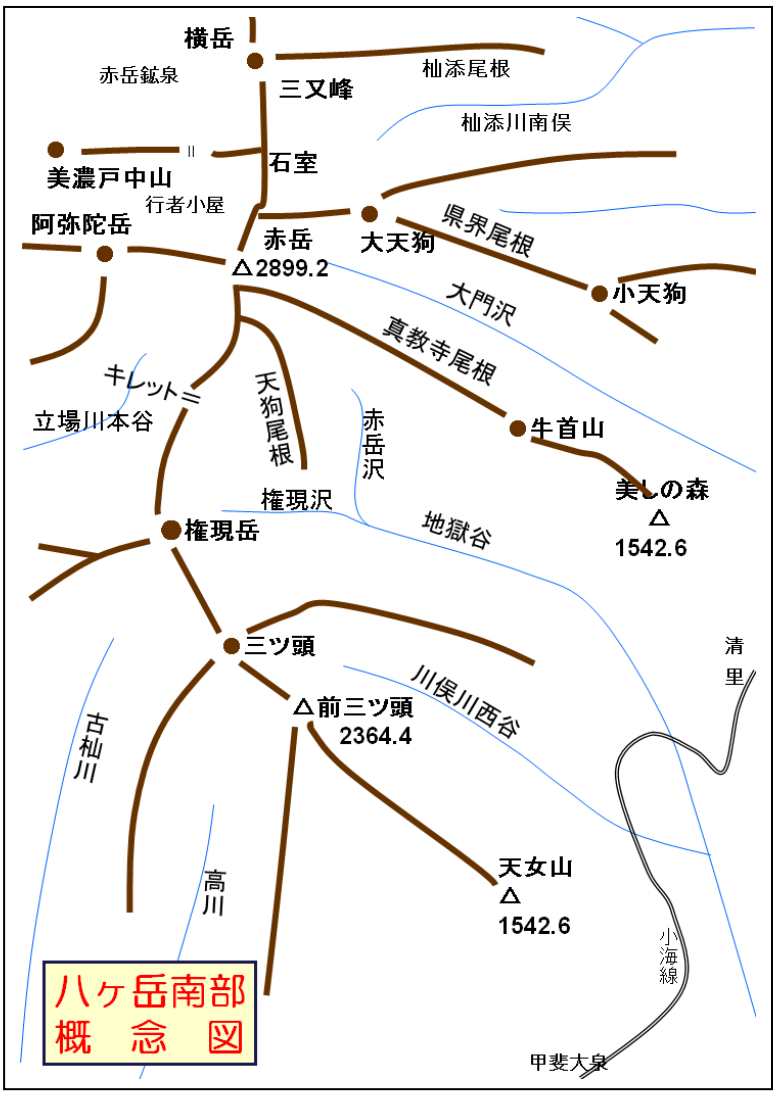
踏　み　跡　＜My　Mountains＞

八ヶ岳	県界尾根（大門沢から赤岳へ）	No.152

例年通り誕生日を山の中で迎えようと思って５月５日から５月１０日まで休みを取った。
計画は残雪の荒川三山だったが、天候が許さず遂に休みは最後の二日を残すのみとなってしまった。
急遽計画を変更して、八ヶ岳県界尾根を狙うことにした。
余談ではあるが、南アルプスでは荒川三山、上越では仙ノ倉山、この二つはなかなか運に恵まれない。
県界尾根は真教寺尾根と並んで八ヶ岳東面に長く伸びる稜線で、今年着手した「八ヶ岳の残された稜線へのアタック計画」のひとつに数えられるものである。

昭和４５年５月８日
そんなわけで 26 才の誕生日を家で過ごした翌日の出発となった。平日なので夜行列車も空いている。

昭和４５年５月９日
小渕沢で乗り換えの時間を利用して、立ち食いそばで暖をとる。
朝の薄明かりの中の八ヶ岳はおよそ 2600m 付近より上を雲の中に隠しており、下界は曇りではあるが上へ行けば雨に会うことは間違いなさそうだ。
清里で下車、駅で朝食をとり 7 時に出発。バス便はあるがストライキ中なので歩くしかない。わずかな道のりにも　「バスがあればなあ」の気が起きる。
美しの森のスキー場を抜けて大門沢へ。二輪のショウジョウバカマが不運な曇天の出発を祝福してくれるかのように首を傾げている。
右岸から左岸へ、左岸から右岸へと何度かの徒渉の末 10 時 20 分、最後の徒渉の後尾根の取り付き点に到達。
尾根に入る前に豊富な水を利用して豚汁を作り昼食とする。ここから先は水がない世界だからここで贅沢に。時々ガスの切れ間に大天狗の岩峰が威圧的な風貌をのぞかせる。
11 時 30 分出発。まず最初のワンピッチは県界尾根の稜線に飛び出すまで 50 分。
まずまずのペースではあるが、小雨が降り出して来たのが気になる。
針葉樹林を抜けて、2445m の大天狗までさらに 50 分。距離の割に時間を要しているのは雨を吸い込んで湿りきった重い雪のせいと、その雨で濡れた体のせいだろうか。濡れて体にへばりつくズボンと、靴下が吸い込んだ水。
2500m を越えるとさらに冷たい風が加わる。
大天狗の岩場はいやらしい湿潤な雪も手伝って非常に悪い所になっている。雨でぬれたピッケルも扱いにくいし、アイゼンは軋むような音でおびやかすし・・・・。
15 時 05 分赤岳直下の主稜線に到達。
雨、雨、雨で何も見えず。ここまでたどり着いて得られたものは、ずぶぬれの全身と立ち止まれば襲いかかってくる寒さだけ。
びしょぬれの右足はもうしびれ始めており、このままでは凍傷の危険性もある。大急ぎで靴下だけ履き換えることにしたが、かじかんだ手ではザックも容易に開けず、20 分もかかってようやく履きけることができた。



踏　み　跡　＜My　Mountains＞

下りは大急ぎ、と言っても濡れた雪が相手ではさして捗りはしない。夕暮れまでに野営の場所を見つけなければならない。登りで難渋した岩場を丁寧に下り、雪の中に灌木が顔を出す所まで進みツエルトを張る。
時計を見ると 16 時 30 分。
まずは濡れたものを全部脱ぎ去り、オーバーズボンと股引だけの下半身とセーターの上に重ね着の網シャツだけの上半身になる。衣類を干しながら手足を丁寧にマッサージして温めて、夕食の支度に入る。
19 時、小雨の音を聴きながら寝袋に入る。オーバーズボンとオーバーシュズを履いて寝る。ズボンと靴下は抱いて寝れば乾くだろうという読み。

昭和４５年５月１０日
起床 4 時 45 分、まだ小雨が降り続いているが、もう下るだけだからたいして気にもならない。
靴をあまり濡らしたくないので、オーバーシューズを着けて下る。
大天狗まで 10 分、大門沢下降点までさらに 20 分、やはり下りはいいものだ。
振り返ってみると、昨日息を切らせながら登った岩場も寒かった主稜線もすべて小雨にかき消されて見えやしない。見えるのは小さく跡を追ってくる雪崩だけ。
小天狗から野辺山への道を下ってみたかったが予想以上に雪が深いので、昨日の道を大門沢へ下る。
美しの森 9 時 50 分。タラの芽はまだ固いがフキノトウはもう終わっている。あるのは唐松の柔らかな芽吹きとその独特の色。山の春はまだまだのようだ。
清里発 12 時 20 分、八王子着 15 時 05 分、珍しく早い帰宅となった。
雨、霧、雪崩、深い雪、凍傷の危機などなど色々難しい場面もあったが、けっこう楽しいかなり勉強になる山行だった。
山で人間に出会わなかったことも特筆すべきことのひとつだろう。

以上